

フキ指導案 チーム四小

青 梅 第 四 小 学 校
授 業 改 善
4 年

5月 27日(火) 2時間目 (次回 2 8(水)④)

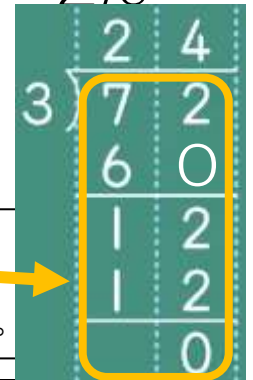
算数「わり算」 4 年 (大塚山クラス) 2/8

本時のねらい

○わり算が、ひき算の筆算で表せることを知り、
10のまとまりの良さに気付くことができる。

本時のこだわり (わる数) × 10 って簡単で楽！

【引き続けるひき算の筆算】を、わり算の筆算創造の第一歩に。



段 階	学習活動	指導・支援 (○) 評価 (☆)
導 入	1. 今日のめあてを確認する。 わり算を〇〇算で、計算しよう 2. 問題を提示する。 12 個もあめを、1 人に 4 人ずつ配ります。 何人に配れますか。 C: $12 \div 4 = 3$ 3 人 T: まず、4 こ配ったってことは、全体から 4 こ？ C: 引いた。 ひき算だ。	○=ひき算 ○わり算の場面を、ひき算を使って解決する考え方を共有する。(ブロック演示) ○累減の筆算の形と、答えの見方を教える。(引いた数が答)
展 開	3. $72 \div 3$ を累減の筆算で解決する。 3 回目まで全体で行い、やることを確認する。 3 分間で、できるところまで引き続ける。 0 まで引き続けた模造紙を見る。 C: 長い。むり。やりたくない。めんどくさい。 ノートに入りきらない。 T: 1 人分ずつ引くから大変なんだよね。じゃあ… C: まとめて引けば楽！ T: 何人分ずつ引きたい？ C: 2 人分。3, 4, 5, 6, 7, 8, 9 2 人分、7 人分ずつひく筆算を全体で確認する。 3~6, 8, 9 人分を手分けして書く。 →黒板に貼る。	○3 個 (1 人分) ずつ引いていくことを確認する。 ○ネガティブな言葉を、簡潔、明確、統合などの意欲につなげていく。 ○九九の範囲になれば、九九を使ってよい。 ○2 人組で、3 回程度まで引く。

	4. 「簡単に」の観点から何人分ずつひくのがよいか、検討する。 C: けっこうすぐ数が少なくなってきた。 T: どんな計算が「簡単」？ C: くり上がり、くりさがりがない計算。 回数が少ない。 C: 2～7はまだ続いている。(もう一回ひいたら) C: 9は繰り下がりばかり。9の段が苦手。 ・ 10人分を全体で取り組む。→ノートに書く。 C: 簡単じゃん。 これならかける。	○繰り上がり、繰り下がりの数、計算の少なさの観点から、よりよいまとまりを検討する。 * 繰り下がりなし… 7, 8, 10 * 0到達が早い… 8, 9, 10 * 繰り上がりなし… 10 ○可能なら、20人分で引くことにもチャレンジする。
まとめ	5. 学習をまとめる。 ・ わり算は、ひき算の筆算で計算できる。 ・ 10人分をまとめて引くと、簡単！ 6. 練習問題に取り組む。 ・ $91 \div 7$ (13)、$92 \div 4$ (23)	☆わり算は、累減で表せることに気付いている。 ☆10のまとまりの良さに気付いている。(観察、ノート)